

「46億年地球の命」 R1.7.29(月)～31(水)

夏だ！キャンプだ！
第3回
46億年地球の命
ぼくらはみんなできている

2泊3日
7月29日(月)～31日(水)
小学校4年生～6年生

10,000円(税別)
詳細はチラシ裏面をご確認ください

国立大雪青少年交流の家 × あさひやま どんぶりまつい × 富良野自然塾

◆目的

民間等と連携した自然体験活動の機会の提供のあり方を検証し、体験活動の底辺の拡大を図る。

◆参加実績(募集20名)

参加児童22名、スタッフ5名

【学年別】

- ・4年生 7名
- ・5年生 10名
- ・6年生 5名

【男女別】

- ・男子16名、女子6名
- ※全て旭川市内の小学生
- ※リピーター2名

◆チラシ配付先

- ・旭川市内の小学校 (約8,000枚)
- ・旭川市以外の上川管内3市18町村の小学校 (約4,000枚)
- ・札幌市中央区、西区の小学校 (約10,000枚)

◆プログラム

- ①「地球の歴史を学ぶ・植樹」(富良野自然塾にて)・・・150分
「46億年・地球の道」を歩きながら、地球の環境が、人類登場後のわずかな時間によって大きく変わっていることを実感した。
- ②「ナイトウォーク」(大雪青少年交流の家にて)・・・60分
施設周辺の夜の森の中を歩き、暗闇の中でも目が慣れてくると見えるようになることや、視覚以外の感覚への意識が高まるようになることを実感した。また、森で暮らす野生動物の凄さについて考える機会になった。
- ③「ジオハイキング」(望岳台～吹上温泉保養センター)・・・180分
十勝岳中腹の登山道を歩き、火山活動の痕跡やコース途中にある記念碑などから、自然の力の大きさや、当時の人々の苦労について考える機会となった。
- ④「川遊び」(不動の滝にて)・・・180分
箱メガネを使って、絶滅が危惧されているニホンザリガニを探し、きれいで冷たい水の中でしか生きられないことが原因で、数が激減しているという話から、環境変化が生物に及ぼす影響について学んでいた。



⑤「飼育員と一緒に学ぼう！」(旭山動物園にて)・・・120分

北海道で増えているエゾシカの実態と、その原因について学び、生き物は1種類のみで生きているのではなく、他の生き物と関わり合いながら暮らしていることを理解した。また、オラウータンやゾウなどの野生生物が暮らす、ボルネオ島のジャングルは、開発が進み、だんだんと野生生物のすみかが奪われている事実と、その原因が人間たちの豊かで快適な生活のためであることを知り、豊かで、恵まれている自分たちの生活を見直す機会となった。

◆成果

- ① 各事業所がもつ自然体験や環境問題について考えるプログラムを盛り込むことで、事業全体の魅力を高めることができ、定員を上回る応募があった。連携事業の強みを生かすことができた。
- ② 動物園や自然塾のスタッフという外部指導者が、一緒に事業を行うことで、互いがもつプログラムについて、意見や感想を出し合い、プログラムをより一層良いものにするための工夫策を考えられた。



◆課題

- ① 連携事業3年目にして、定員を充足することができたが、参加人数が増えたことや、リピーターにも対応できるように、プログラム内容の一層の充実を考えていきたい。
- ② 札幌市内にも広報を行ったが、送迎バスを出すなどの対応があれば参加したかったという声が多くあり、検討の余地がある。
- ③ 天候に恵まれ、予定通りの活動を行えたが、荒天になった場合のプログラムでは、内容に物足りなさがあるので、検討が必要である。



◆参加者の声

- 地球について学べてよかった。 新しいプログラムも入れてほしい。 初めての体験ができた。
- 中学生になっても行きたい。 来年はスタッフとして、参加したい。
- いろいろな体験をみんなできてよかった。また、参加したい。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

連携事業として3年目になり、参加者の募集や連絡調整、予算などのマネジメントを旅行代理店が行う体制が整ってきた。「民間連携の力で体験活動の提供」という一つの実践例として、継続していく価値がある。

次年度以降は、研修支援団体へのプログラム指導として関わっていく。

◆事業運営費

印刷費	55,102円
通信運搬費	26,635円
燃料費	9,974円
合計	91,711円